



※  は市旗です。市全体の話題の場合に表記しています。



鹿屋 戦没者の冥福を祈り、不戦と恒久平和を誓う

4月6日、市文化会館で「旧鹿屋航空基地特別攻撃隊戦没者追悼式」が行われ、全国から遺族や元隊員など約400人が参列しました。

今年は、風雨の影響で特別攻撃隊戦没者慰霊塔のある小塚公園から会場を移して開催。56回目を迎える同追悼式は、国内最大級だった旧海軍鹿屋航空基地から特別攻撃隊として出撃していった16歳から35歳の隊員908人の御霊を慰めようといわれているもの。式典では、参列者全員で国家を斉唱した後、特別攻撃隊などで戦死した御霊に黙とうを捧げました。嶋田市長は「隊員の無念を思う時、深い悲しみが込み上げ、ご遺族の長年の幾多の労苦と心情を思うと胸が痛みます。恒久平和の実現に努力します」と式辞を述べました。その後、参列者による献花に続いて遺書朗読、生存者による「同期の桜」の合唱が行われ、戦没者の冥福を祈り、不戦と恒久平和の誓いを新たにしました。



鹿屋 津波避難訓練を実施

4月21日、浜田地区で地元住民等約170人参加のもと、鹿屋市津波避難訓練を実施しました。

訓練は、震度6弱の地震が発生し、10分後に2mの津波が到達する想定で行い、警察、消防、地元消防分団が連携し、消防サイレンや町内会放送で避難場所である浜田運動広場への避難を呼びかけました。参加者は、真剣な眼差しで取り組んでいました。



安全安心なまちづくりの推進をアピール

4月10日、西原運動公園駐車場で「鹿屋市安全安心決起大会」を開催しました。警察・消防や自衛隊、防犯協会など各種団体の約500人が参加。鹿屋体育大学生坂本芽生さんの『安全安心の誓い』や鹿屋市による『交通安全都市』宣言のあと、参加者は街頭に出てチラシなどを配布。市民総ぐるみの安全安心なまちづくりの推進をアピールしました。



31年ぶりの快挙 県の指定文化財に

4月23日、中尾地下式横穴墓群出土品、岡崎古墳群（15号墳）の2件が県の指定文化財となりました。これは鹿児島県内での地下式横穴墓のあり方や、志布志湾沿岸の他の古墳群との関連等を大きく見直すきっかけとなったことが評価されたものです。市では、昭和57年に笠野原土持堀の深井戸が県指定文化財に指定されてから31年ぶりの快挙です。